

2020年6月8日

シリーズ企画「コロナ後のイノベーション動向」

## 【3】ソフト系、米国が世界8割、裾野も広く

### —中国は少数精鋭ユニコーン級で対抗

主任研究員 上原正詩

(要旨)

- ▶ ソフトウェアはスタートアップ全体約 1200 社の中で最も企業数が多い産業分野である。米国企業が 8 割を占め、世界の中で圧倒的な存在感を示す。ユニコーン予備軍に占めるソフト系の割合も、ユニコーンに占める割合よりも多く、今後もユニコーンの輩出が期待される分野である。
- ▶ ビッグデータの人工知能 (AI) によるビッグデータ解析、ビッグデータの管理、オフィスワークの自動化、サイバーセキュリティ、ソフト開発支援ツールなど多様な領域で、有望なユニコーンが生まれている。米企業で最も評価額が大きい米パラソル・テクノロジーはビッグデータ解析技術をコロナウイルス対策に活かしている。
- ▶ 一方、中国は企業数では少ないが、評価額合計では 4 割を占め、少数精鋭のユニコーンが AI 分野などをリードする。評価額首位の字節跳動 (バイトダンス) はビデオ会議ソフトを投入し、コロナ禍で注目されるリモートワーク (在宅勤務) 市場を開拓する。

「ソフトウェア」分野のスタートアップは 12 の産業分類中で最多企業数を誇り、全体の 2 割強を占める。中でも米国企業が企業数で全体の 8 割を占め、ほかの国を圧倒的にリードする。ユニコーン候補も多数控え、すそ野の広さゆえに米国の優位はしばらく続きそうな勢いだ。企業数は少ないものの中国は評価額で大きな企業が多く、人工知能 (AI) 分野などで少数精鋭で対抗する。ソフト系はビッグデータ解析、ビッグデータ管理、オフィスワークの自動化、サイバーセキュリティ、ソフト開発支援や研究支援ツールなど多彩な領域で、有望な企業が生まれている。

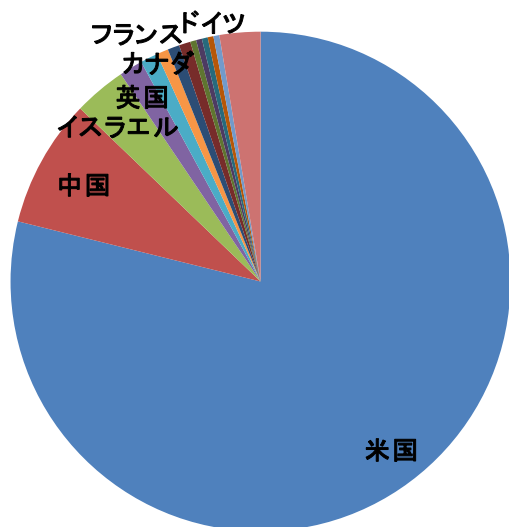
#### ■米ベイエリアに全体の半数が集積、

ソフト系<sup>1</sup>スタートアップは 265 社あり、12 分類のうちでも最も多かった。2 位のヘルス系の 1.4 倍で、全体の 22% を占めている (連載【2】の図表 3 参照)。評価額合計は 4284 億ドルで、フィンテックに次ぐ 2 位の地位にある。国分布では米国が企業数で全体の 8 割弱を占め、2 位の中国 (8.3%) を圧倒する (図表 1)。米国も中国もスタートアップ全体と比べるとそ

<sup>1</sup> データベース、ピッチブックの産業分類 (Verticals) のうち Cybersecurity、HR Tech、Marketing Tech、Big Data、Artificial Intelligence & Machine Learning、SaaS を、さらに全産業分類 (All Industries) のうち Operating Systems Software、Software Development Applications、Communication Software、Database Software、Automation/Workflow Software、Network Management Software、Business/Productivity Software、Internet Software、Vertical Market Software、Other Software をソフトウェアとして分類した。

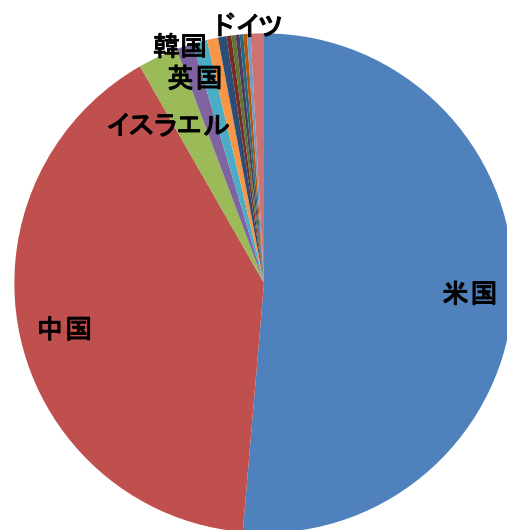
の比率は高く、両国にスタートアップが偏在している格好だ。評価額合計では米国のシェアは約 5 割に低下し、中国が約 4 割と米国に肉薄する。これは中国に評価額 950 億ドルの字節跳動 (バイトダンス) など巨大スタートアップが計上されていることが大きい。バイトダンスは中国全体の 5 割強を占めており、同社を除けば中国のシェアは 2 割に下がる。また 3 位には企業数、評価額合計ともイスラエルが入った。評価額別の分布を見ると、中国がデカコーン、ユニコーンに偏っているのに対し、米国はユニコーン候補の層が手厚く、新しいビジネスアイデアが潤沢に存在すると考えられる (図表 2)。

図表 1 ソフト系スタートアップの国分布  
(企業数)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

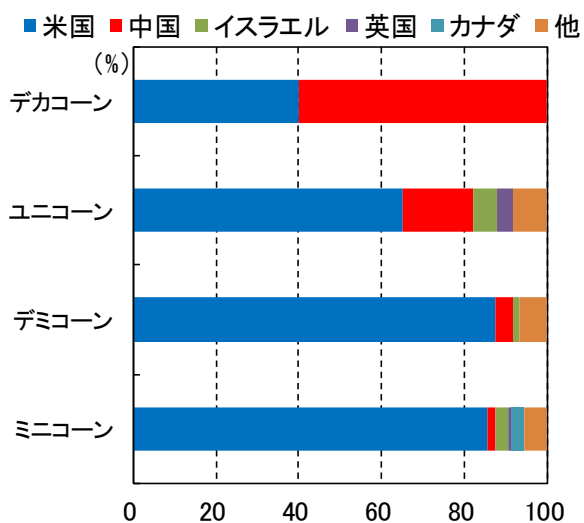
(評価額合計)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

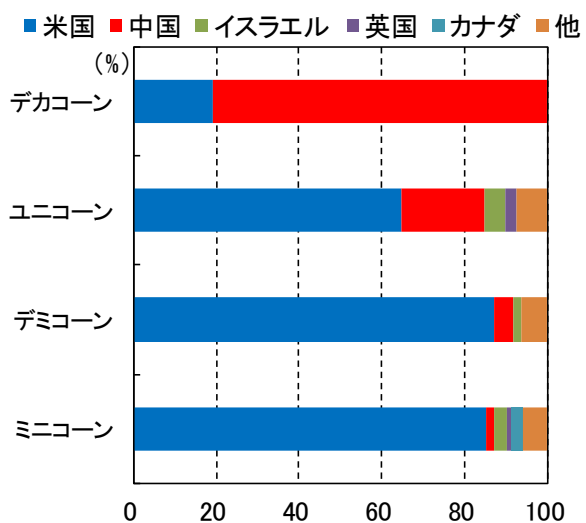
図表 2 ソフト系スタートアップの国別の評価額別シェア

(企業数)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)

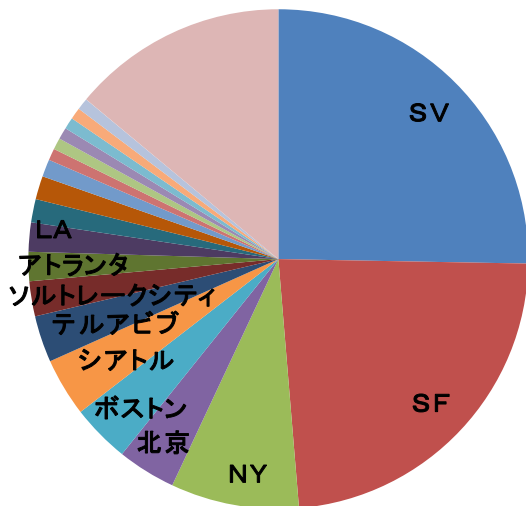


(資料)PitchBook(4月30日時点)

都市分布を見ると企業数ではシリコンバレーとサンフランシスコがそれぞれ全体の 4 分の

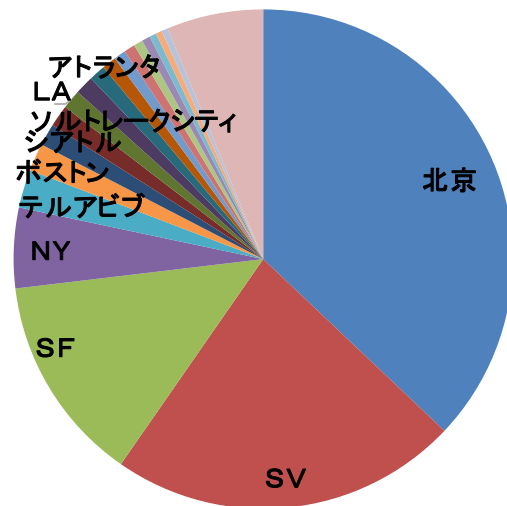
1を占めた(図表 3)。カリフォルニア州のベイエリアに全体の半数が集中している形だ。ニューヨークが3位で、北京、ボストン、シアトルが同率4位。評価額ではバイトダンスのある北京が1位。シリコンバレー、サンフランシスコが続く。バイトダンスを除いても北京は2位となる。4位はニューヨークで、5位にテルアビブが浮上している。テルアビブには AI で人の行動を予測する、評価額 21 位(30 億ドル)のインフィボンド(テルアビブ)がある。

図表 3 ソフト系スタートアップの都市分布  
(企業数)



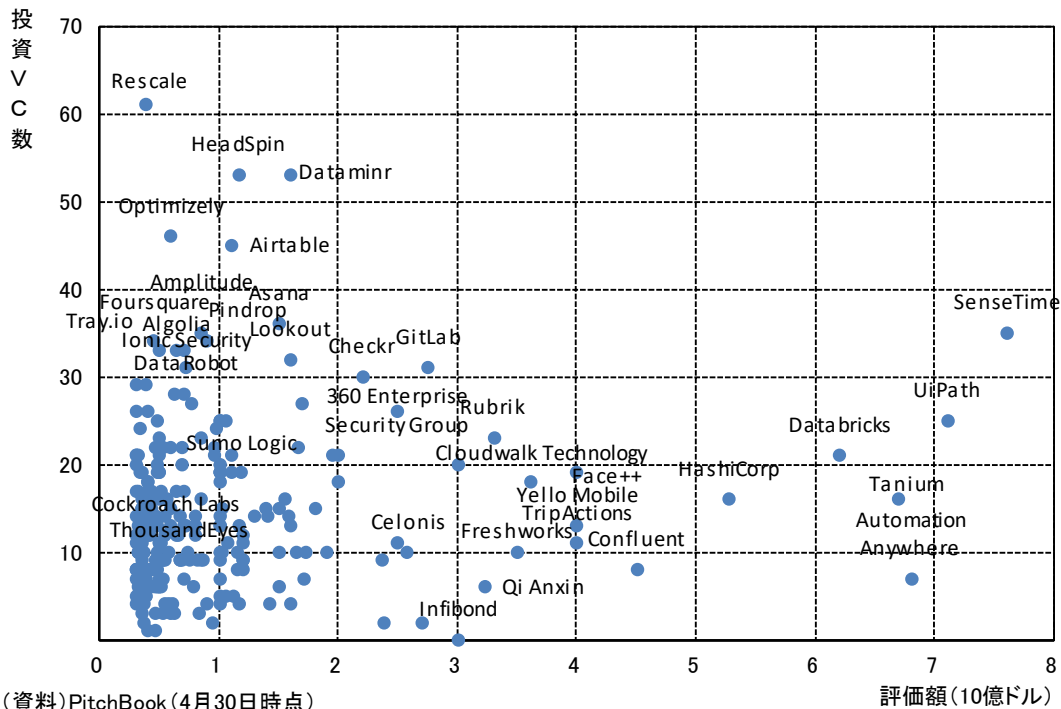
(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

図表 4 ソフト系スタートアップの評価額と投資 VC 数の散布図



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(注)バイトダンス(評価額 950 億ドル、投資 VC 数 28)、快手(286 億ドル、14)、パランティア・テクノロジーズ(203 億ドル、102)、スノーflake(124 億ドル、14)、今日頭条(120 億ドル、5)の 5 社は枠外

デカコーンはバイトダンスのほか、快手(クアイショウ)(北京)、米パランティア・テクノロジー(シリコンバレー)、米スノーフレーク(シリコンバレー)、バイトダンス系の今日頭条(トウティアオ)(北京)の5社ある。図表4はソフト系265社のうちデカコーン5社を除いたスタートアップを、横軸に評価額、縦軸に出資しているVCの数(投資VC数)をとった散布図である。図表4を参考にしながら、注目のソフト系スタートアップをピックアップし、同分野のトレンドを見てゆく。

### ①ビッグデータ解析

ソフト系は米国企業が圧倒的な存在感を示す中、そのトップに君臨するのがビッグデータ解析会社、米パランティア・テクノロジー(シリコンバレー)だ。ペイパル創業者の1人で、トランプ大統領の技術アドバイザーを務めるピーター・ティール氏が2003年に設立した。評価額200億ドルを越えるデカコーンで、ティール氏自らがパートナーを務めるファウンダーズ・ファンドや米モルガン・スタンレー、シェアーズポスト、タイガー・グローバル・マネジメント、米中央情報局(CIA)傘下のインキューテル(In-Q-Tel)など100を越える投資家が出資する。

パランティアは「データ主導の意思決定・運用のためのソフト」を開発する会社で、世の中に分散して存在する、構造化されていない様々なデータを収集。それを解析できる形に編集して分析、グラフィックスなどで分かりやすく可視化する。政策決定者などの意思決定に有用な判断材料を提供する。イスラム過激派テロリスト、オサマ・ビン・ラディンの捜索にも同社の技術が使われたといわれる。

その解析技術はコロナウイルス対策にも使われている。パランティアは米疾病対策センター(CDC)や英国の国民医療制度(NHS)に「パランティア・ファウンドリー」というソフトを提供。人工呼吸器の保有台数や患者の収容容量など医療機関のデータ、コロナウイルス患者の発生状況などのデータを取り込み、どこの病院が検査機器など必要な物資を必要としているかを予測する。報道によれば、カナダ、スペイン、オーストリアなど12カ国に採用が広がっているという<sup>2</sup>。

投資VC数50以上のユニコーン、米データマイナー(ニューヨーク)もビッグデータ解析を得意とする。ツイッターやブログの膨大なソーシャルメディアのデータを収集しAIで分析、新しい事件や災害などを検知するサービスを手掛けている。政府、メディアやリスク管理に敏感な企業などに情報を提供している。2009年創業で、ゴールドマン・サックス、シェアーズポスト、そしてCIA系インキューテルなどが出資する。同社は3月30日、コロナ禍に関するレポートで、コロナウイルスに関する目撃証言などソーシャルメディアへの投稿の数が、実際のウイルス感染者数の急拡大に7~15日前から急増していると発表した。ソーシャルメディアが次のホットスポットがどこになるかを検知する指標になりうるとしている。

### ②クラウド利用のビッグデータ管理ツール

パランティアなどはビッグデータ解析ツール、分析結果を提供するが、ビッグデータをクラウドに保管して管理するツールを提供するスタートアップも多数ユニコーン級に育っている。

評価額4位のデカコーン、米スノーフレーク(シリコンバレー)は「クラウドベースのデータウ

<sup>2</sup> Bloomberg “Palantir’s New ‘Driving Thrust’: Predicting Coronavirus” April 2, 2020  
Outbreaks<https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-04-02/coronavirus-news-palantir-gives-away-data-mining-tools>

エアハウス(データ倉庫)」。企業向けにビッグデータの保管とそのデータベース管理システムをクラウドで提供する。クラウドサービス大手のアマゾン(アマゾンウェブサービス=AWS)も「レッドシフト」、グーグルも「ビッグクエリ」、マイクロソフトも「アズール・シナプス」という名称でデータウェアハウスのサービスを提供しており、スノーflakeはAWSに続きマイクロソフト、さらに20年2月からはグーグルのクラウドサービスの中でも利用可能になった。異なるクラウド上に構築されたデータベースをシームレスにつなぐことができる。2012年創業で、2020年2月に新たにセールスフォース、セコイアなどから4.9億ドルを調達している。

評価額10位の米**データブリックス**(サンフランシスコ)は2013年設立のユニコーンで、ビッグデータを分析するためのプラットフォームを開発している。形式の異なる様々なデータをプラットフォームに取り込んで、機械学習などAIの手法を用いて需要などを予測する。カリフォルニア大学バークレー校のソフト開発プロジェクト「アパッチ・スパーク」から派生したスタートアップで、マイクロソフト、タイガーなどが投資している。

評価額12位の米**コンフルーエント**(シリコンバレー)は発生するデータをリアルタイムに処理する「イベント・ストリーミング」処理のプラットフォームを提供する。データベースに格納する前にデータを処理するもので、ソーシャルネットワークの米リンクトインのプロジェクトから派生したオープンソースソフト「アパッチ・カフカ」を商業利用している。「アパッチ・カフカ」の開発チームが独立して2014年に創業し、2020年4月に米ヘッジファンドのコートウー・マネジメントやセコイア・キャピタルなどから2.5億ドルを調達している。

評価額18位の米**ループリック**(シリコンバレー)は企業のビッグデータのバックアップをクラウド上に作成するサービスを提供している。身代金を要求するウイルス「ランサムウェア」に感染しても、すぐに復旧することが可能という。2014年創業で、シェアーズポストなどが出資する。グーグルやセコイア、アクセル、ソフトバンクなどが支援する評価額25位の米**コヒシティ**(シリコンバレー)は「セカンダリーストレージのデータ統合」を標ぼうし、バックアップデータをスマホなどで有効活用するサービスを提供する。

### ③オフィスワークの定型作業の自動化(RPA)

ソフトウェアの大きなトレンドの一つが「RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)」だ。ロボットといっても機械のロボットではなく、ソフトのロボット。ソフトウェアのロボットを使ってホワイトカラーのオフィスワークを効率化する。パソコンを使ったオフィスワーカーの作業をロボットに教えると、ロボットが機械学習などAIで作業を学習し、その作業を自動化する。画像認識技術などを使って、経理や購買の請求書の入力作業や人事部の社員名簿の改訂作業などを人手よりも短時間でできる。

評価額7位の米**ユーアイパス**(ニューヨーク)はRPAの代表的スタートアップ。ユーアイパスはルーマニア出身のダニエル・ディネス氏とマリウス・トルカ氏がブカレストで2005年に設立し、2015年にニューヨークに移転した。セコイア、クライナー・パーキンス(KPCB)、アクセルなど30社弱が支援する。新型コロナウイルスの感染拡大で、中小企業などからのローン申請の処理などペーパーワークが急増している。ユーアイパスは米銀行大手3行のうち2行から、ローン申請事業を受託し、情報入力を自動化して米中小企業庁に送り、優遇措置審査を迅速に処理できるようにした。日本ではIoT(モノのインターネット)系ベンチャーと共同で、従業員の位置情報と滞在時間を記録して、感染者が出た場合に濃厚接触者をすぐに割り出せるシステムを開発している。

同 8 位の米オートメーション・エニウェア(シリコンバレー)はユーアイパス、英ブループリズム(ロンドン証券取引所上場)とともに RPA 市場を牽引する 3 社と見られている。2003 年設立で、ゴールドマン・サックス、ソフトバンクグループなど 7 社が投資する。オートメーション・エニウェアのサイトではコロナウイルス禍で対応した例として、航空業界やホテル業界の予約キャンセルの自動化などを挙げている。

評価額 24 位の独セロニス(ミュンヘン)は RPA を導入する前に、オフィスワークそのものを整理して、どこを改善すべきかを明確にするツールを提供する。「プロセスマイニング」と呼ばれるルーツで、オフィス業務関連のイベントログを分析し、業務プロセスを可視化。どの作業がボトルネックになっているかなどを把握できるようにする。2011 年創業で、アクセル、独連邦経済エネルギー省、独ダイムラーや米プラグ・アンド・プレイ・テックセンターなどが主催するアクセラレーター「スタートアップ・アウトバーン」などが支援している。

#### ④サイバーセキュリティ

コロナウイルス禍の中でリモートワークなどが拡大し、オフィスの外でパソコンなどの端末を使用する機会が増えている。脆弱なオフィス外の環境下でコンピューターウイルスの脅威も増大している。デジタル空間が広がるにつれ、サイバーセキュリティ対策の重要性が増し、関連スタートアップへの注目も高まっている。

評価額 9 位の米タニウム(サンフランシスコ)は、パソコンやスマホなどネットワークの入口である「エンドポイント」のセキュリティを常時監視するサービスを提供する。問題のありそうなソフトをダウンロードしている端末を検知し、修正・対策プログラムを配布したりする。イラク出身のユダヤ人、デイビッド・ヒンダウィ氏とその息子のオリオン・ヒンダウィ氏が 2007 年に創業した。アンドリーセン・ホロウィッツ、米 VC の IVP などが支援している。アクセル、タイガー、ニューヨークの VC のインサイト・パートナーなどが支援する米センチネルワン(シリコンバレー)も、エンドポイントでセキュリティを担保するサービスを提供している。

セキュリティ系スタートアップもデータにアクセスする過程のどの地点で保護するかでいろいろな種類がある。グーグル、アマゾン、KPCB など 30 社以上が出資する、ユニコーン目前(評価額 9 億ドル)の米イオニック・セキュリティ(アトランタ)は企業が持つデータそのものを暗号化して保管することでセキュリティレベルを堅持する。社員がデータにアクセスする時だけ解読し表示する。外部からアクセスしても暗号化されているため読み取ることができない。

#### ⑤ソフト開発支援、研究支援ツール

ソフトウェアや IT インフラの開発を支援するツールを提供するスタートアップも注目される。

評価額 11 位のハシコープ(サンフランシスコ)はクラウドベースの IT インフラ構築を支援するツールを提供している。「ベイグラント」というソフトは、1つのコンピューター上に、別の基本ソフト(OS)で動く仮想のコンピューター「仮想マシン」を簡単に構築できるツールで、複数のコンピューターを接続しなくても、クラウド上に IT インフラを作り上げることができる。「ヴォルト」というツールは、パスワードなどを一元的に管理するソフトで、複数のクラウドに接続された環境でもパスワード漏れなどを防ぐことができる。「テラフォーム」は作成したプログラムを複数のクラウド上で実行するツール。ハシコープは日系 3 世のミシェル・ハシモト氏らが 2012 年に設立し、米シスコシステムズ、協業アプリ大手の米スラック、GGV キャピタル、IVP などが支援する。

評価額 22 位の米**ギットラブ**(サンフランシスコ)は 2011 年設立のユニコーンで、ソフトウェアをオープンソースで開発する協業プラットフォームだ。ソースコードをアップロードし、そのバージョン管理を「Git」というシステムで実施する。マイクロソフトが 2018 年に買収したギットハブの競合と考えられている。Y コンビネーター、ゴールドマン・サックス、タイガー、500 スタートアップスなど 30 社強が出資する。

パランティアに次ぐ 60 社強という投資 VC 数を誇る米**リスケール**(サンフランシスコ)はシミュレーションなど科学技術計算ソフトをクラウドベースで研究者などに提供する。2011 年設立で評価額 3.8 億ドルのミニコーンだが、アマゾン創業者のジェフ・ベゾス、ピーター・ティール、Y コンビネーターの創業者ポール・グラハムらが個人で出資するほか、日本からは伊藤忠商事や三菱 UFJ フィナンシャルグループも投資する。3 月にはコロナウイルスのワクチン開発や薬の効果検証をシミュレートできるサービスの提供を始めた。

グーグル、タイガー、SV エンジェルなど 50 社強が出資する米**ヘッドスピン**(シリコンバレー)は 2015 年創業のユニコーンで、モバイルアプリなどの開発支援ツールを提供する。開発したアプリのテストや利用者の行動データ収集、利用状況に応じた改善などが可能になる。アンドリーセン・ホロウィッツなど 50 社弱が出資する米**オプティマイズリー**(サンフランシスコ)は 2009 年設立のデミコーン(評価額 6 億ドル)で、ウェブ開発支援ツールのスタートアップ。電子商取引サイトのウェブデザインを改良する場合、文字の配置や色など異なるパターンを用意し、実際の購買率がどうなるかを測定する「AB テスト」が有効だ。この AB テストが簡単にできるツールを開発した。セコイアなど 35 社が出資する米**アンプリチュード**(サンフランシスコ)は 2012 年創業のデミコーン(同 8.5 億ドル)で、モバイル利用者のアプリ利用行動を分析するツールを提供する。同社は予測分析の米**クリアブレイン**(シリコンバレー)を買収し、AB テストなしでサイトの改善効果を予測できるようにしたという。

## ⑥ 業務支援ツール

評価額 14 位の米**トリップアクションズ**(シリコンバレー)は企業向けの出張支援サービスを提供する。出張者はウェブを通じてホテルなどの予約ができる。割引特典なども適用されて、企業にはコスト削減にも繋がる。2015 年設立でアンドリーセン・ホロウィッツなどが出資する。新型コロナウイルスの影響で出張需要も激減し、同社は 3 月に従業員の 25%に相当する 300 人を解雇している。

評価額 17 位の米**フレッシュワークス**(シリコンバレー)は顧客管理・支援ツールを提供する。サポートセンターが顧客とウェブ越しにチャットで質問を受けたりすることで、顧客満足度を高める。インド人のギリッシュ・マツルーブータム氏らがフレッシュデスクとして 2010 年に創業し、アクセル、セコイア・キャピタル・インディア、タイガー、インドの全国ソフトウェア・サービス企業協会(NASSCOM)などが支援する。

評価額 29 位の米**チェッカー**(サンフランシスコ)は採用候補者の身元調査をオンラインで実施し、人事担当者の採用活動を支援する、いわゆる「ネット興信所」だ。2014 年創業のユニコーンで、顧客企業が採用しようとしている人材の過去の採用履歴、さらに犯罪歴、薬物使用歴などをネット上の情報で探索し、顧客に報告する。

## ⑦ 中国系ソフト会社

ソフトの分野は米国が圧倒的な存在感を示しており、ユニコーンからユニコーン候補まで

その層は厚い。一方、中国系スタートアップは、層は薄いが VC から多額の資金を集めたユニコーン以上の企業が多数存在する。

評価額1位は 950 億ドルで断トツのデカコーン、**字節跳動(バイトダンス)**(北京)。人工知能(AI)を使ってビッグデータを解析するテック企業で、レコメンド機能を活用したニュース系コンテンツ配信の「今日頭条(チンリートウティヤオ)」の運営会社として知られている。ダンスなどの短編動画コンテンツを投稿・配信できる「抖音短視頻(ティックトック)」が世界的にヒットし、フェイスブックやインスタグラムと競合するソーシャルメディア企業に成長した。

一般消費者を利用者とするB2C(消費者向け)企業だが、2020年1月、社内向けに開発してきた協業ツール「飛書(フェイスチャー)(英語名ラク)」を社外に開放しビジネス市場に本格参入した。コロナ禍の中、リモートワーク(在宅勤務)を推進する。中国のリモートワーク用の協業アプリ市場は、阿里巴巴集団(アリババ集団)が「釘釘(ディントーク)」、騰訊控股(テンセント)が「企業微信(ワーク・ウィーチャット)」を展開しており、バイトダンスは両巨頭と真っ向勝負を挑む。

天津の南開大学でコンピューター工学を学んだ張一鳴(チャン・イーミン)氏が2012年に創業。今やバaidu(百度)、アリババ、テンセント3社(通称「BAT」)と肩を並べる。ナスダックに上場するバaiduの時価総額は350億ドル(5月末時点)なので、バイトダンスの評価額の方が大きい。BATのBはバイトダンスに交代する勢いだ。同社にはGGV、啓明創投(チミン・ベンチャー・パートナーズ)、セコイア・キャピタル・チャイナ、ソフトバンクグループなどが出資している。

評価額2位の**快手(クアイショウ)**(北京)もビッグデータ関連企業に分類された。「ティックトック」同様の短編動画の投稿サイトで、1分ほどの動画をアップロードできるほか、ビデオゲームのライブ配信なども手掛けている。テンセント、アリババ、バaidu、セコイア・チャイナなどが投資している。メディアとしてコロナウイルス関連の動画投稿が人気を博したほか、遠隔教育、遠隔医療の動画プラットフォームとしても活用されている。

評価額6位の**商湯科技(センスタイム)**(北京)<sup>3</sup>は画像認識技術を自動運転の目、スマホの解錠、決済システムの認証など様々な分野に応用するAI企業。2014年設立で、アリババ、タイガー、米クアルコム、シンガポールのテマセク・ホールディングスなど35社が投資する。ライバルの**北京曠視科技(メグビー、「フェイス++」)**(北京)は13位で、アリババ、GGV、鴻海精密工業(ホンハイ)、チミンなどが投資する。16位の**雲従科技(クラウドウォーク・テクノロジー)**(広州)も顔認識技術のAI企業で、中国家電大手の海爾集団(ハイアール)や小米科技の創業者・雷軍が出資する順為資本(シュンウェイ・キャピタル)などが支援する。米商務省は米国企業からの輸出規制の対象となる外国企業リスト「エンティティ・リスト」にセンスタイムとメグビーを19年10月に追加している。中国政府が顔認識技術を使ってウイグル人の監視を強め、人権を侵害しているためだ。

## ■ユニコーン量産工場 Y コンビネーターがネットワークの中心に

図表6にソフト系を支援するVC上位10社(21社以上に出資)のランキングを示した。コーポレート系のVCとして、米クラウド大手のセールスフォース・ドットコム(セールスフォース・ベンチャーズ)が入っているのが特徴だ。また米国を代表するアクセラレーターで、ユニコー

<sup>3</sup> Pitchbook では北京の企業としているが、香港中文大学の湯曉鳴教授が中心となり香港で創業した企業である。

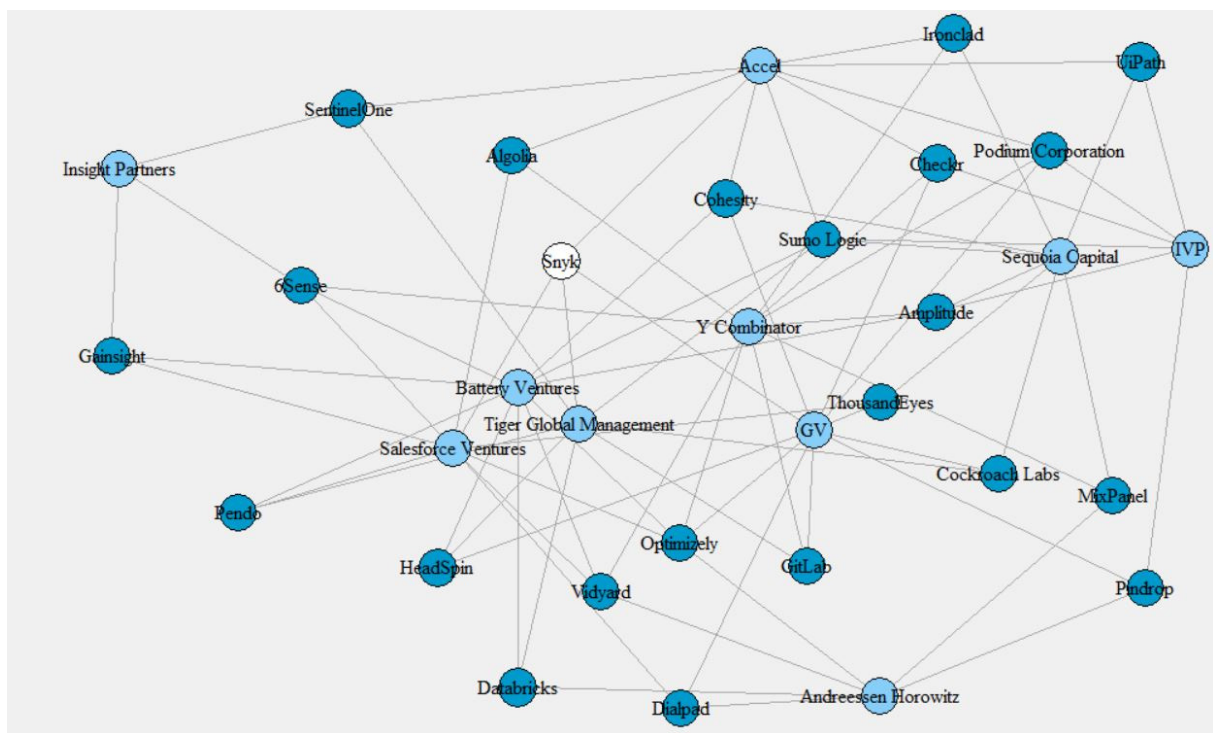


ン量産工場ともいわれる Y コンビネーターも十指に入った。

図表 6 ソフト系を支援する VC 上位 10 社 (カッコ内は出資スタートアップ数)

- 1 米アクセル(32)
- 2 米アンドリーセン・ホロウィッツ(26)
- 3 米バッテリー・ベンチャーズ(26)
- 4 米セコイア・キャピタル(26)
- 5 米 GV(23)
- 6 米インサイト・パートナーズ(23)
- 7 米セールスフォース・ベンチャーズ(23)
- 8 米 IVP(21)
- 9 米タイガー・グローバル・マネジメント(21)
- 10 米 Y コンビネーター(20)

図表 7 ソフト系の有力 VC とスタートアップの出資関係



(資料) Pitchbook、JCER

(注) 青い丸は米国系で濃い色がスタートアップ、薄い色が VC、赤い丸が中国系で濃い色がスタートアップ、薄い色が VC、白い丸はそのほかの国のスタートアップ及び VC。スタートアップの丸の大きさは評価額を表す。ソフト系スタートアップ 265 社に出資する VC は 2100 弱。そのうち 20 社以上のスタートアップに出資する VC10 社と、VC10 社が 3 社以上出資するスタートアップ 23 社の出資関係をネットワーク・グラフで表現した。

図表 7 はトップ 10 VC と、出資するスタートアップの出資関係を描いたグラフである。Y コンビネーター、GV が中心付近に陣取り、多くのスタートアップに出資している構図が見て取れ

る。両社はギットラブやオプティマイズリーに共通に出資している。アクセルとセコイアなどが出資する米**スーモロジック**(シリコンバレー)はサイバーセキュリティ関連のユニコーン。膨大なログ(通信記録)をクラウドベースで監視・分析し、企業のセキュリティやコンプライアンスの問題に対応するサービスを提供する。

GV、セコイア、タイガーなどが出資する米**コックローチ・ラボズ**(ニューヨーク)はビッグデータ管理のデミコーン。データベースのバックアップを作成するのではなく、複数のサーバーに保管することで不測の事態に対応できるサービスを提供する。2015年にグーグルの元社員らが創業した。

GV、セコイア、セールスフォースなどが出資する米**サウザンドアイズ**(サンフランシスコ)はネットワークの監視・可視化ツールを提供するデミコーン。6月に入り、シスコが同社を買収すると発表している。アクセル、タイガー、セールスフォースなどが出資する英**スニック**(ロンドン)はオープンソースコードのセキュリティをチェックする。2020年1月に新規資金を調達し、ユニコーンの仲間入りをした。

本稿の無断転載を禁じます。

詳細は総務本部までご照会ください。

---

公益社団法人 日本経済研究センター

〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル11F

TEL:03-6256-7710 / FAX:03-6256-7924